

【ATC 道標④】

今日は、アークテックコム(株)にて技術書類の作成を行っています豊原 信です。

Tel : 050-6864-6201
Fax : 050-6864-6202
E-mail : m.toyohara@arcteccom.jp

真の勇氣とは(2)

今日は弊社の「道標」の続きの紹介を致します。

**仕事の責任者になることで
真の勇氣を会得する**

世間には、たまたま親の事業を引き継いだがために経営者になった、という人もいます。そのような経営者は、実力を認められてリーダーに選ばれたのではないわけですから、真の勇氣の持ち主とは限りません。

しかし、企業を経営していくためには、「勇氣」は不可欠です。

例えば小学生の頃はガキ大将で、また、学生時代は柔道や少林寺拳法をやっていたこともあって、腕っ節にはある程度自身があり、言うなれば、肉体的な強健さを持ち合わせていたため、精神的なタフさも兼ね備えることができた、腕に多少自身があるという人は、だいたい気が荒くて向こう気も強い、そのためにしなくてもいいけんかをし、強引に仕事を進めて、結局失敗

するというケースが多いのです。経営者に必要なのは、そのような蛮勇ではなく「真の勇氣」なのです。

それ故、経営者には「怖がり」という資質がどうしても必要となります。お金を借りるにしても、事業を展開するにしても、何をするにしても小心で、最初は^{おしげ}怖気づくようなタイプの人、経験を積んでいくことによって、つまり場数を踏むことで物事の本質を掴めるように成り判断力や断行力もついてきて能力が向上して来ます。合わせて強い信念を持てるように成れば胆力も付き勇氣を出せるようになります。

場数を踏む際に注意することがあります。真心で持って相手のために成ることを考えて実践することを繰り返します。そうすることで雑念妄念を払拭して本当に相手のために成ることを掴まえることが出来ます。相手から非難されるのではなく尊敬して受け入れてもらえます。こ

れが真の勇氣なのです。

**勇氣と度胸は大義名分でき
まる**

争いは、お互いが利己の心で考えた信念を持つときに始まります。片方が少しでも「理性と良心」で考えた思いを持つと、争いに発展しません。

常に、人間として正しいことは何かを追求して、得た正しいことを正しい方法で実践するようにすることです。正しいことを知性と感性と感情で捉え、「理性と良心」で魂に教え込む。そうすることで魂の叫びになってきます。

人のために勇氣を出すことは、非常に高尚なことです。勇氣を奮い立たせるには大義名分が必要だと思います。

**真の勇氣は使命感から形
成される**

使命感とは、自己の人生に対する責務を全うしようとする思いです。

この思いは、人間として正しいことを追求し、正しく実践する時に必要になります。「煩惱と本能」に打ち勝つ勇氣と社会の一般常識を乗り越えるのに必要な勇氣を引き出します。

誰もが勇氣を持っているわけではありませんから、脅されたりすれば肝をつぶして、ガタガタ震えてしまうこともあるでしょう。それでも、いざという場面では度胸を決めて戦わなければなりません。それは、社長やリーダーであれば必ず負わなければならない「責任」なのです。女性の中にも、「私がここでがんばらなければ」と奮起して、その迫力で相手を怯ませてしまう人がいます。肉体的に頑健だというわけでもなければ、豪胆な気質を持っているわけでもありません。「自分は社長なのだ」という責任感があるからこそ、それができるのです。

「信念を貫く」という項目で述べたように、「従業員のために、また、自分を支えてくれる家族のために、命に代えてもこの会社を守っていくのだ」という凄まじい気迫、信念ほど、リーダーや経営者を強くするものではありません。

闘争心を燃やす

仕事は真剣勝負の世界であ

り、その勝負には常に勝つという姿勢でのぞまなければなりません。

しかし、勝利を勝ち取ろうとすればするほど、さまざまなかたちの困難や圧力が襲いかかってきます。このようなとき、私たちは得てして、怯んでしまい当初抱いていた信念を曲げてしまうような妥協をしがちです。こうした困難や圧力をはねのけていくエネルギーのもとはその人の持つ不屈の闘争心です。格闘技にも似た闘争心があらゆる壁を突き崩し、勝利へと導くのです。

どんなにつらく苦しくても、「絶対に負けない、必ずやり遂げてみせる」という激しい闘志を燃やさなければなりません。

経営者は集団のリーダーですから、まさに勇者でなければなりません。経営者ほど、ボクサーやレスラー、力士などに必要とされる闘争心が要求されるものはないと思います。

実際、勝ち気で負けん気が強く、闘争心があり、ボクシングやレスリングなどの格闘技が好きだという経営者が、男女を問わず非常に多いものです。しかし、なかには、格闘技の試合などを見ると目を覆ってしまい、

「怖い」と言う、非常に心優しい経営者もいます。

しかし、誤解してはなりません。闘争心といっても、「相手を打ち負かす闘争心」ではないのです。例えば路傍の草木を見ても、まるで競い合うように生きています。陽の光を少しでもたくさん浴びようと精一杯葉を伸ばし、一生懸命炭酸同化作用を行い、養分を蓄え、過酷な冬に耐えて、再び春を待つのです。雑草でさえも、すべてが一生懸命に、「生きよう、生きよう」と努めています。

そのような草は、隣に生えている草を打ち負かそうなどとは思っていません。ただ、自分が陽を浴びようとして、精一杯葉を伸ばしているだけなのです。周りの草も同様に、必死に生きようとしています。

自然界では、そのようにしてみんな自分の目標や使命を全うしようと一生懸命に生きています。そこでは、「もういい」とがなばることをあきらめたものは、滅んでいかざるを得ません。自然界というのは、もともとそのようにできているのです。つまり、「適者生存」が自然界のルールなのです。

よく、「自然界は弱肉強食の世界」と言われます。強い者が弱い者を食らって生き延びていく、

激しい闘争の世界です。しかし、実際は自分の目標や使命を全うしようと、一生懸命に努力をした者、誰にも負けないような努力をした者が世の中に適応して生き残り、努力しなかった者は絶えていく、この適者生存こそが自然界の掟なのです。ですから、私たちが持つべき闘争心とは、相手を倒すためのものではなくて、自分の目標や使命を全うしようと精いっぱい生きていくためのものでなければなりません。これは闘争心の本来の意味です。

自然界のルールに関し追加で記述します。特定の種のみが生き残り繁栄すると、全体の調和を保つためにその種は滅びるとい現象が起こります。この現象は人間の社会でも見られます。出生率の低下現象です。人間一人一人が最適な物心両面の幸福を求め必死に努力を行う結果、「合成の誤謬」という現象が起こっています。今まで政府や企業も一緒に成って対策を行ってききましたが歯止めが掛かりません。やはり、一人一人が適者生存し協調共生する勇気を持つことが必要です。

※2026年05月号に続きます。

今月の応援メッセージ

真の勇気

よく聞く話ですが、相手のいった言葉にひっかからないようにしましょう。すぐにひっかかってしまう。わざわざひっかかりにこっちから行くのは慌て者です。殆どの詐欺がこれです。とにかく一日の人生を送る時に、お互いの気持ちを勇気づける言葉、喜びを分かち合う言葉、聞いていても何となく嬉しくなるような言葉を言い合おうではないですか。

中村天風の文章に面白いのが有ります。紹介します。

人の気持ちは誠に凄いエネルギーの元になる。例えば医学上から見てとても助からないような病人の枕元に行って、こちらが元気で積極的な態度で接すると、その人の状態がずうっと良くなってしまふものだ。私はそれで、どれほど危篤になっている人を助けて来たか分からない。『さあ心配するな！俺が来たからもう大丈夫だから、いいか！俺が駄目だと言ったら覚悟しろ。俺が駄目だと言わなければ大丈夫だから！』と言うとずうっと勇気が出てくるものです。

だから私はいつも言う。お互いに勇気づける言葉、喜びを与える言葉という様な積極的な言葉を使う人が多くなれば、この世は期せずして、もっともっと美しい平和な世界になる。

勇気は自分で何とかしなきゃあと考えがちですが、違うのです。相手のために成ることを積極的な気持ちで行うことなのです。

豊原 信